

娘が生きた陸前高田に恩返し

絵描き会子ども支える

兵庫県西宮市の藤田敏則さん(63)は、阪神大震災の際に開いた子ども向けのお絵描き会を陸前高田市で始めた。東日本大震災で同市職員だった長女菊池明さん(29)をさくら落ち込むばかりだったが、「お父さんだからできることがあるはず」と天から届く明さんの声に背中を押され、16年前の活動を再開。また娘が過ごした地へ恩返しを込め子どもたちに向き合っている。

【兵庫の藤田さん】

2日は陸前高田市の長 明さんは2009年4月保育所などを回った。月に陸前高田市の菊池武絵を指導するだけでなく好きなだけ描いてもらう。4月から市職員に採用され社会福祉士として、高齢者虐待防止や認知症相談を担当した。積極的に高齢者宅を訪問したり、地域のなまりを理解しようと反響があった。

活動は1995年の阪神大震災にさかのぼる。子どもたちに楽しんでもらうと仲間の画家らと企画した。2カ月余で19人所、千人が参加。市民院での相談に向かう途中から「元気をもつた」に懸けに運び、文ささん(31)と結婚。10年文ささん(31)と結婚。10年ぶりに再婚した。16年前の活動を思い出しているようだ。

そんな時「私を温かく迎えてくれた人が大変な時に、泣いてばかりいるのが、とても悲しみがこみ上げ、涙が止まらなかつた。

そこで、私の活動を思い起して、その努力家をよそとする地域のなまりを理解しようとする

「好きな絵を書いて」と子どもたちに寄り添う藤田敏則さん

陸前高田市

自宅に戻った。途端に張り詰めていた胸の緊張が解けた。脱力感と悲しみがこみ上げ、涙が止まらなかつた。

そんな時「私を温かく迎えてくれた人が大変な時に、泣いてばかりいるのが、とても悲しみがこみ上げ、涙が止まらなかつた。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。

「阪神」の経験生かす

被災地から

戻った。その後、津波が

襲い、行方不明となつた。

が、28日に遺体で見つか

った。

「どこかにいるのでは

ない。少しでも

子どもたちに楽しい時間

を過ごしてもらひ、大人

も元気になつてほしい」

と優しいまなざしを向ける。

藤田さんは「娘がお世話になつた方々が苦労し

ている時に、知らん顔で

はいられない。少しでも

子どもたちに楽しい時間

を過ごしてもらひ、大人

も元気になつてほしい」

と優しいまなざしを向ける。

藤田さんは「娘がお世

話になつた方々が苦労し

ている時に、知らん顔で

はいられない。少しでも

子どもたちに楽しい時間

を過ごしてもらひ、大人

も元気になつてほしい」

と優しいまなざしを向ける。

</